

# 埋文だより

第91号

令和5年9月29日発行

## 大量の遺物から感じる

## 古墳時代の息吹

## 名主原遺跡

みょうずばる

名主原遺跡は鹿屋市吾平町下名に所在し、鹿屋吾平佐多線(吾平道路)改築事業に伴い、令和4年度から発掘調査を行っています。

これまでの調査で、古墳時代の竪穴建物跡が50軒以上見つかっています。また、当時使用されていた古墳時代の土器(成川式土器)が大量に出土しています。

名主原遺跡は今後も調査は続けられ、さらに遺構・遺物が発見されると考えられます。今後の調査を通して、古墳時代の集落の様相、生活様式など、当該期の研究が進展していくと思われま

### 目次

- ・名主原遺跡発掘調査…………… 1
- ・発見! 発掘速報(公財)…………… 2~5
- ・ワクワク考古楽・現地説明会…………… 6
- ・河コレ遺跡めぐり(⑧ 入来遺跡)…………… 7
- ・令和5年度 発掘調査予定遺跡…………… 8

# 発見！ 発掘速報

今年度、県内各地で発掘調査を行っています。今回は(公財)埋蔵文化財調査センターの発掘調査成果の一部を紹介します。



## 台地上に残された複数時代の人々の営み

—野首遺跡—(志布志市志布志町帖)—

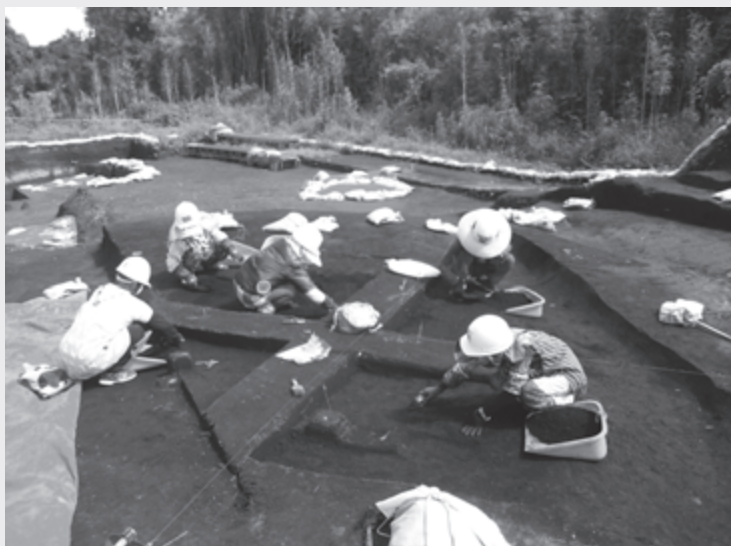


野首遺跡では、日南・志布志道路建設に伴い、令和5年5月から発掘調査を行っています。本遺跡は、志布志湾に流れる前川の河口から約3km北にさかのぼった西側の縁辺部、標高約50mのシラス台地上に位置します。前川をはさんだ東側には、本遺跡と同一事業によって調査が進められている南水ヶ迫B遺跡があります。

野首遺跡からは、今のところ古墳時代中期(約1,500年前)の土器を伴う<sup>たてあな</sup>堅穴建物跡が1基発見されています。堅穴建物跡の平面形は、約4m×4mの<sup>すみまるほうけい</sup>隅丸方形を基本形としているようです。また、縄文時代早期では、<sup>しゅうせき</sup>集石がこれまでに30基以上見つかっています。遺物は、<sup>こく</sup>黒曜石でできた<sup>だせいせきぞく</sup>打製石鏃10数点と<sup>はくへん</sup>剥片石器が出土しています。さらに黒曜石のチップ(石器を作るときに出た破片)も多く見つかることから、この周辺で、石器を作っていたことが

考えられます。他にも現在調査中ではありますが、<sup>ほったてぼしらたてものあと</sup>掘立柱建物跡・<sup>どこう</sup>落とし穴・土坑なども見つかっています。

令和6年2月まで調査を予定しており、さらなる成果が期待できます。



遺構調査(堅穴建物跡・古墳時代)



遺構検出状況(集石・縄文時代早期)



遺構調査(落とし穴・縄文時代)



## ここには 何があったのか？

みなみみずがさこ  
—南水ヶ迫B遺跡（志布志市志布志町帖）—



南水ヶ迫B遺跡では、日南・志布志道路建設に伴い、令和5年5月から発掘調査を行っています。市街地の東側、志布志湾を望む標高約55mの台地上に位置します。

これまでの調査で中世の溝跡や多数の道跡（古道硬化面）が検出されています。複数の道跡が重なるように検出されている部分もあり、時代を超えて人々が行き交う場所として利用されていたようです。両端に溝を伴う全幅約1.8mの道跡も検出しています。溝に挟まれた硬化面の幅は約1.2mあり、東西方向に約18mの長さで検出されています。硬化面の幅が広いことから、主要道路として利用されていた可能性もあります。また、これら道跡のそばからは、当時としては高価なものだった中国産華南三彩の鳥形水注の破片なども出土しています。華南三彩鳥形水注は近くの志布志城跡からも出土しています。このほか、青白磁の双耳壺や古瀬戸のおろし皿の破片など、南部九州の一般的な集落遺跡ではあまりみられない海外や国内の遠隔地からもたらされた希少な陶磁器類も出土しています。

アカホヤ火山灰で埋まった不思議な溝跡もあります。溝跡の掘り込みは下層にあるアカホヤ火山灰層には達しておらず、なぜ溝跡がアカホヤ火山灰で埋まったのか、このアカホヤ火山灰はどこから持ってきたのかよく分かっていません。

たくさんの道跡に、貴重品だった遺物の数々…。南水ヶ迫B遺跡は何か特別な場所、もしくは、どこか特別な場所に向かう途中の重要な通過地点だったのかもしれない。



調査区の様子



アカホヤ火山灰が埋められた道跡



華南三彩鳥形水注



青白磁双耳壺



古瀬戸のおろし皿

発見！  
発掘速報

## 溝に捨てられた大量の青磁と獣骨

やまかし  
—山借シ遺跡—(大島郡喜界町)—

山借シ遺跡は奄美大島の東側に位置する喜界島に所在する遺跡です。令和5年5月から7月までの3か月間発掘調査を行いました。山借シ遺跡は標高約90mの段丘上に位置しており、東側は標高約150m台地に向かう斜面となっており、その斜面には水が湧く場所も確認されています。

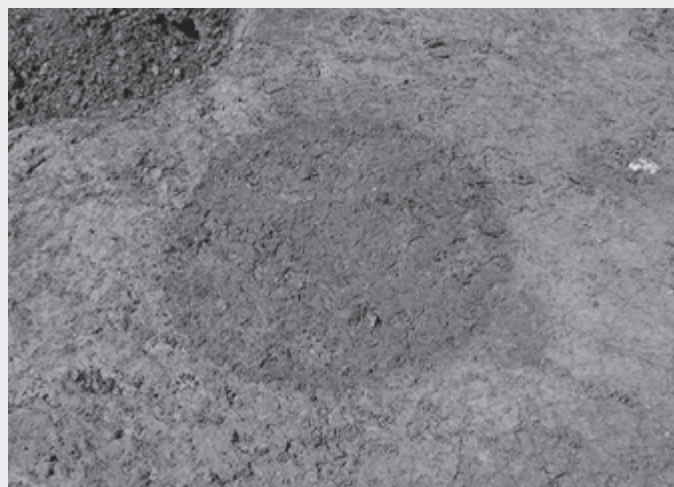
山借シ遺跡からは、鎌倉時代～室町時代（13～15世紀）の溝跡、石積遺構、炉跡、土坑や掘立柱建物跡と、江戸時代の溝跡が見つかりました。鎌倉時代～室町時代の溝跡は、幅約1.5m、深さ約1.5mを測り、L字形にカーブを描いていることが確認されています。溝の中からは、大量の獣骨（動物の骨）や青磁が出土しました。獣骨はそのほとんどが牛の骨で、その他には馬や小動物の骨が、ごくわずかに出土しています。また、牛の骨も、足や周りの部分の骨が多く、肋骨などの胴体部分の骨はあまり出土していません。頭の骨は顎や歯は出土していますが、頭蓋骨は出土していません。このように骨がバラバラになった状態で出土していることや、同じような位置で折られている骨が多く出土していることから、当時の人々が牛を食べた後に、骨を溝に捨てた可能性も考えられます。当時は牛や馬は農業をするうえで貴重な存在であったため、牛を食べていたとすると珍しい事例であると言えます。



中世の溝状遺構

また、骨と一緒に出土しているものは、その大部分が青磁と呼ばれる中国の浙江省龍泉県やその周辺で焼かれた陶磁器です。

溝の周辺では内面が赤く焼け、底の部分に炭が堆積した炉跡が10基検出されました。そのうちの1基からは、直径約8mmの水色のガラスビーズが出土しています。これまでの喜界島で行われた調査の成果を合わせて考えると、島外からガラス素材を入手して、それを溶かし、島内でガラスビーズを作っていた可能性も考えられます。



炉跡検出の様子



獣骨の出土状況

## よみがえる中世の痕跡

— 諏訪ノ前遺跡 (阿久根市波留) —



諏訪ノ前遺跡は、阿久根市波留に所在し、高松川左岸の標高約 30mの台地上から下る緩やかな斜面に位置します。南九州西回り自動車道建設に伴う発掘調査です。

5月から調査を開始し、これまでの調査で中世後半(15～16世紀)を中心とする溝状遺構、炉跡、深さ1m前後の土坑が数基、多数の柱穴などが検出されています。中世後半の溝状遺構からは、石臼や火鉢、中国産陶磁器、五輪塔の一部と考えられる石を含む礫の集中部などが見つかりました。溝状遺構は、近現代まで土地の区画としても利用していた可能性があります。炉跡は非常に保存状態がよく、天井部のドーム形の造りや床面の炭化物がきれいに残っています。深さ1m前後の土坑は使用目的がはっきりしておらず、埋土サンプルの科学分析を行い用途を調べる必要があります。また、遺物では須恵器や土師器、陶磁器、土錘などが出土しており、中世に該当する遺物が多数を占めています。

炭化物や土のサンプルによる科学分析を行うことにより、遺構の年代や用途を特定することができ、今後分析を実施していくことでより詳細な成果が上がることを期待されます。現在も発掘調査は続いており、今後の調査成果にも注目です。



溝状遺構



溝状遺構内の礫集中部検出状況



炉跡 (直径約 1.8m)



土坑完掘状況 (深さ約 1m)

## ワクワク考古楽授業支援（出前授業）

県立埋蔵文化財センターでは、県内の学校に本センター職員が出向いて、発掘された本物の土器や石器などの資料を活用し、授業を行う「ワクワク考古楽」授業支援（出前授業）を行っています。今年度は8月現在で小学校6校、中学校1校、特別支援学校1校の計8校で実施しました。

5月10日に実施した霧島市立国分南中学校では、上野原遺跡について学習しました。「二つの南の縄文文化」に焦点を当て、10,600年前の国内最古・最大級の集落跡として国指定史跡になっていることや、8,500年前の祭祀を行ったと考えられる場所から出土した遺物が、国の重要文化財に指定されていることなどを学習しました。

6月16日に実施した出水市立米ノ津東小学校では、学校周辺の遺跡として、近年発掘調査が行われた六反ヶ丸遺跡と山ノ段遺跡を紹介しました。発掘調査の様子や見つかった遺構・遺物などを、写真を使って説明しました。

本県は離島が多いことや、上野原縄文の森や県立埋蔵文化財センターから遠距離である等の理由から、直接見学に行く機会がない子どもたちも少なくないと思います。そのような子どもたちに、本物の土器や石器に触れ、郷土の歴史や文化に興味・関心を持ってもらうことが、「ワクワク考古楽」の大きな目的です。今年度も実施していますので、ぜひ利用していただければと思います。

「ワクワク考古楽」の詳細は、埋蔵文化財センターホームページ (<https://www.jomon-no-mori.jp/category/zcenter/wakuwakushien/>) をご覧ください。



霧島市立国分南中学校での授業



出水市立米ノ津東小学校での授業



## 現地説明会を実施

—(さつま町柏原)—



6月24日、大願寺跡の現地説明会を行いました。

大願寺は康安元（1361）年に創建された寺で、辺りを治めていた<sup>けどういんし</sup> 禰答院氏の<sup>ぼだいじ</sup> 菩提寺です。今回の調査は、6月1日から6月28日の約1か月間実施し、土坑や溝跡、中世・近世のピットなどの遺構、陶器や縄文時代早期の土器などの遺物を発見しました。

現地説明会ではそれらの成果を説明するとともに、大願寺跡の<sup>やく</sup> 薬師堂跡・<sup>しどうあと</sup> 開山堂跡の石塔群についても紹介しました。今回の説明会には近隣の方など約40人が参加しました。担当者の説明を聞きながら地域の歴史を再確認されていました。

埋蔵文化財センターでは、県民の皆様には埋蔵文化財のことをより広く知ってもらえるよう、各種事業を展開しています。特に発掘調査現場においては、先人たちの知恵・功績について紹介し、埋蔵文化財に関する理解を深めていただくことを目的とした遺跡公開も開催しています。実施する遺跡や日時については、ホームページ等で随時お知らせいたします。



調査成果の説明



大願寺の住職の墓塔が建つ開山堂跡

# 河コレ遺跡めぐり

河口貞徳氏の歩んだ遺跡  
いりきいせき

## ⑧ 入来遺跡 (日置市吹上町入来)



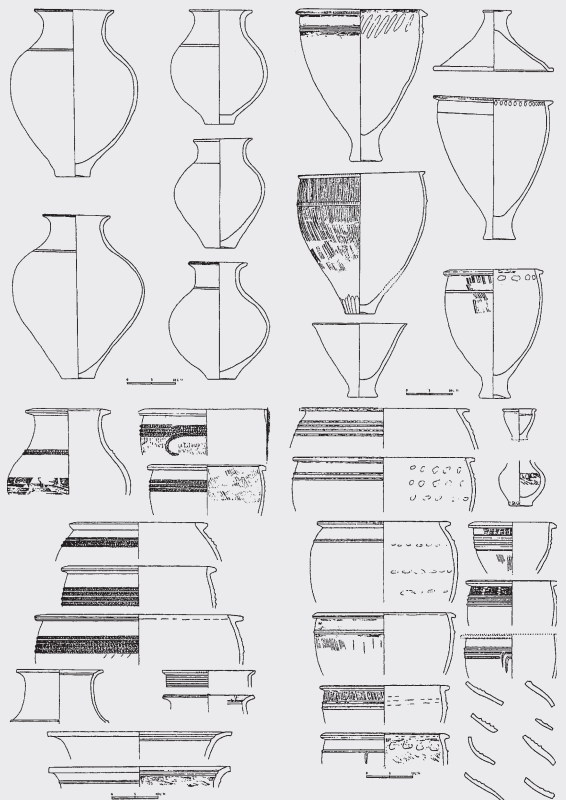
鹿児島県立埋蔵文化財センターでは、長年、県考古学会の会長をつとめられた故河口貞徳氏の寄贈資料を整理・活用する事業に取り組んでいます。『埋文だより』では、これまで河口氏が取り組んだ代表的な遺跡調査を振り返り、貴重な遺物や発掘当時の様子等を紹介したいと思います。みなさんもぜひ遺跡のあった場所を訪れて、先人の暮らしに思いを馳せてみてはいかがでしょうか・・・。

入来遺跡は、日置市吹上町入来に所在します。西側には吹上浜と東シナ海が広がり、遺跡北側には伊作川が西流しています。旧鹿児島交通枕崎線（南薩鉄道）の南吹上浜駅跡から 150mほど南進し交差点を左折すると、道なりに 500mほど進んだ場所にあります。東側は小高い丘になっており、標高は 20mほどです。



入来遺跡位置図

入来遺跡は吹上高校社会研究部によって発見されました。研究部員数名が昭和 42 年 6 月 7 日に、入来遺跡近くの支石墓の調査を行いました。たまたま近くの台地では、ブルドーザーを使って工事が行われていました。その工事によってできた崖面に土器や貝殻があることを発見したことが入来遺跡発見のきっかけでした。その 2 日後に、土器が発見された崖より 35mほど離れた私有地の崖面に多数の土器が露出していたのを発見したそうです。その後も何度か同じ場所で調査をして、多数の土器を発見しています。



入来式土器実測図

昭和 44 年 9 月 12 日から河口氏が発掘調査を開始し、弥生時代中期ごろの多数の弥生土器が出土し、台地を横断するV字の溝状遺構が発見されました。その後第 2 次調査が昭和 45 年 10 月、第 3 次調査が 50 年 4 月から行われ、貯蔵穴や古墳時代の竪穴建物跡が発見されました。

遺物は、縄文時代早期から古墳時代までの様々な時代の遺物が出土しました。特に弥生時代中期の土器が多く出土しました。その当時南九州において、弥生時代中期の弥生土器はまだ発見されていませんでした。この入来遺跡で初めて発見されたこの土器は、入来式土器と呼ばれ、入来遺跡が標式遺跡となっています。

石器は弥生時代特有の鑿形石斧・石庖丁のほか、磨製石斧・打製石斧・石鏃・敲石・石製有孔円板・軽石製岩偶・軽石製垂飾・軽石製石棒が出土しました。

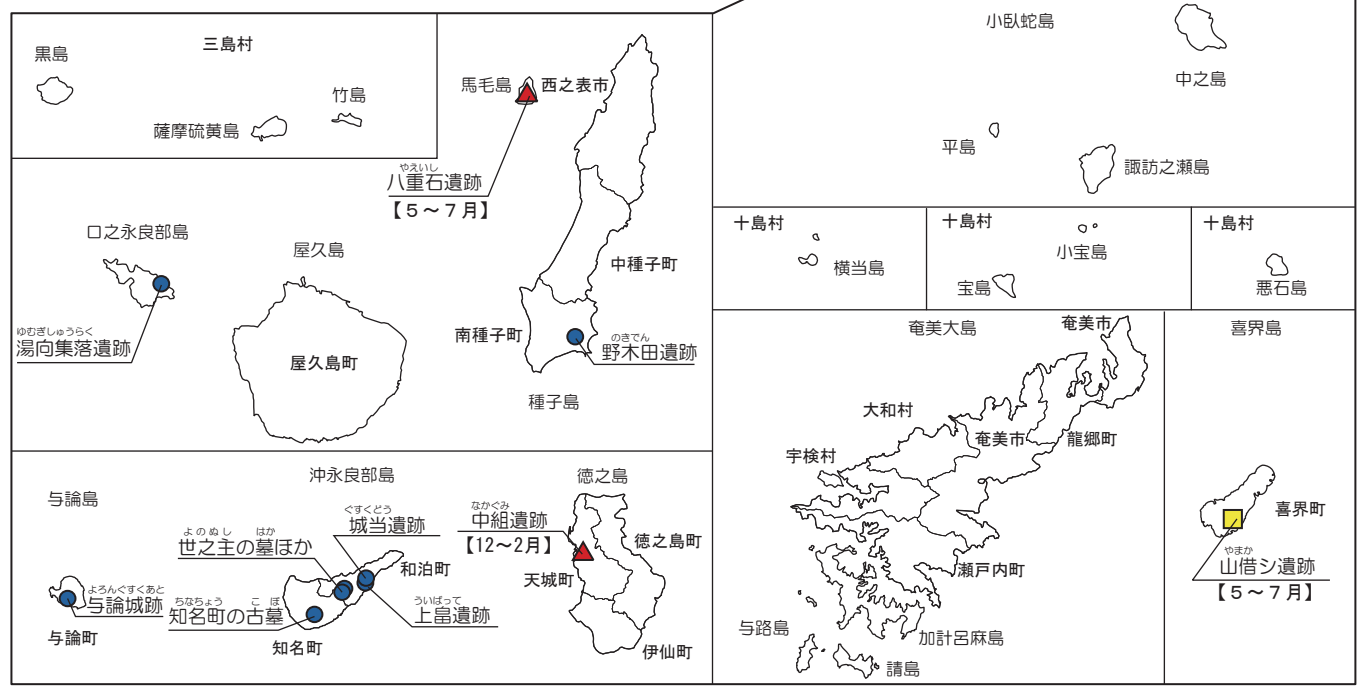
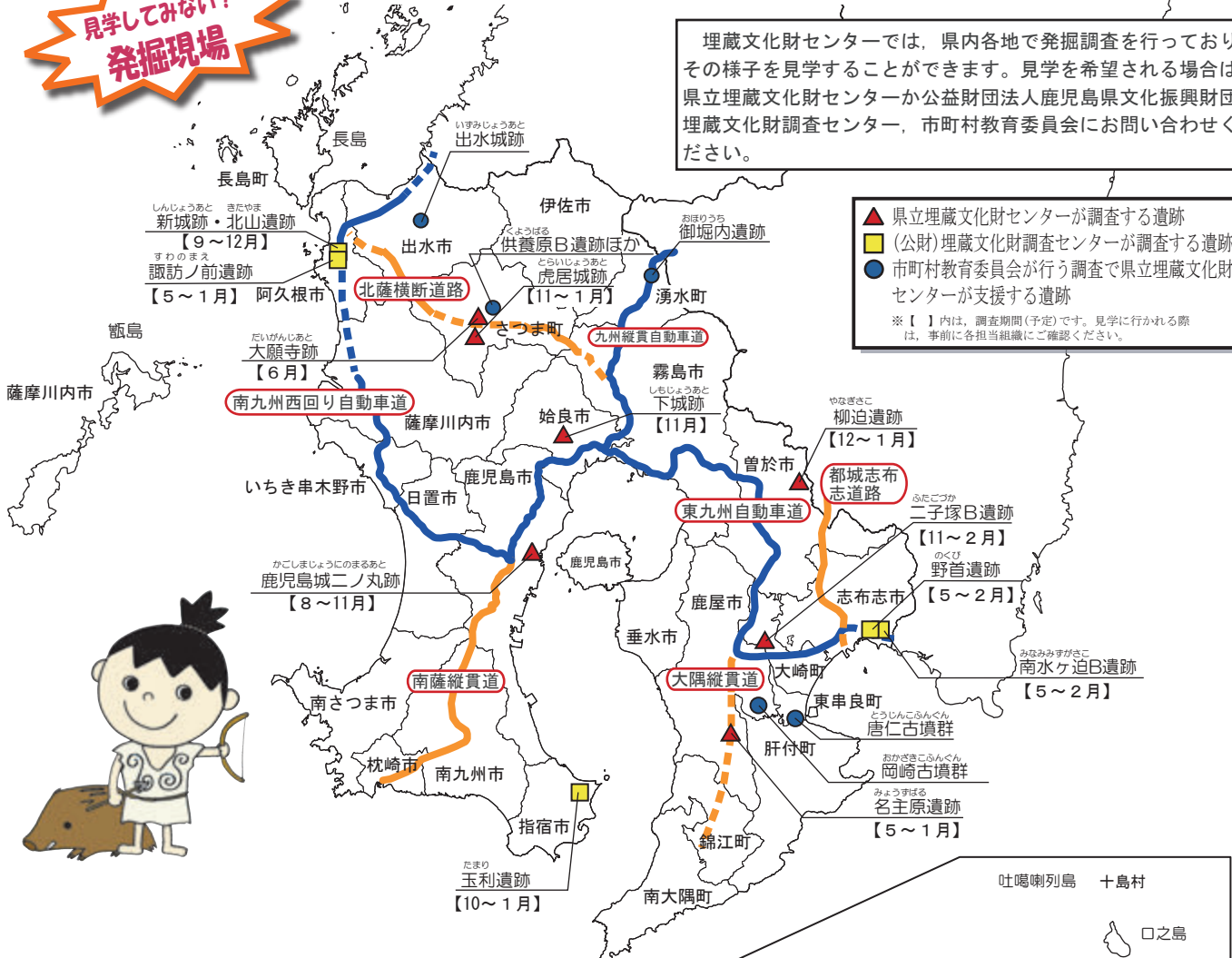
なお、調査日数は延べ 105 日、調査には吹上高校・玉龍高校の高校生を含む延べ 412 名が参加しました。部活動の一環だったとはいえ、当時の高校生たちの、入来遺跡への熱い思いが伝わってきます。



# 令和5年度発掘調査予定遺跡

埋蔵文化財センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学を希望される場合は、県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、市町村教育委員会にお問い合わせください。

- ▲ 県立埋蔵文化財センターが調査する遺跡
  - (公財)埋蔵文化財調査センターが調査する遺跡
  - 市町村教育委員会が行う調査で県立埋蔵文化財センターが支援する遺跡
- ※【 】内は、調査期間(予定)です。見学に行かれる際は、事前に各担当組織にご確認ください。



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

当センターのホームページは、鹿児島県 (<https://pref.kagoshima.jp/>) から入るか、「上野原縄文の森」で検索してください。また、フェイスブックは右側のQRコードからお入りください。

検索キーワード



ホームページ フェイスブック

**埋文だより 第91号**

発行日 令和5年9月29日  
 編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
 〒899-4318 鹿児島県霧島市  
 国分上野原縄文の森2番1号  
 TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820  
 URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>  
 E-mail: [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)